

平久亮菜<sup>1</sup>・照屋清之介<sup>2</sup>・黒住耐二<sup>1</sup>：静岡県南伊豆町におけるヒルガオガイの漂着Akina TAIRAKU<sup>1</sup>, Shinnosuke TERUYA<sup>2</sup> and Taiji KUROZUMI<sup>1</sup> : *Reclizia lutea* washed ashore at Minami-izu Town, Shizuoka Prefecture

ヒルガオガイ *Reclizia lutea* (Benett, 1840) はアサガオガイ科に分類され、黒潮系水域において浮遊生活を送る浮遊性巻貝である (奥谷 2000)。浮遊生活を送るアサガオガイ科の殻は薄く、アサガオガイ科の中においてもヒルガオガイは、殻の形態はタニシ類に似て、色は褐色で光沢を帯びる。ヒルガオガイは稀産であり (Abbott and Dance 1982; 久保・黒住 1995)、その生態についても不明な部分が多い (佐々木 2010)。近年、*Reclizia* 属の雌の成貝と浮遊嚢の間に幼貝が付着し、その幼貝が浮遊嚢や卵嚢に付着しながら成長することが報告されている (Churchill et al. 2011)。

日本国内においてヒルガオガイ生体採集の正確な記録はなく、打ち上げ個体においても情報が少ない。採集した日付や天候、風向、場所を含めて漂着記録を報告したのは、愛知県渥美半島で漂着した例のみであり (林 2014)、関東付近のヒルガオガイの漂着記録は打ち上げ場所の報告に留まっている (例えば、渡辺・成毛 1988; 西村 1999)。今回、著者らは静岡県南伊豆町のトガイ浜に漂着したヒルガオガイを採集したので報告する。

**採集状況** 2014年8月24日、静岡県賀茂郡南伊豆町中木のトガイ浜で (34°36'51.6"N, 138°49'16.2"E)、満潮時の汀線から1 mほど陸側の転石の隙間から、平久が1個体の死殻を打上採集した (図1)。調査を行った浜の長さは約120 mであり、採集時の天気は曇り、気温は27°C、風向は5 m/sであった (気象庁HP)。

**殻の特徴** 殻長10.5 mm、殻幅9.1 mmであった (図2)。殻は薄質であり、色は褐色である。更に茶色の殻皮に覆われている。螺層には修復痕が確認される。殻頂は白色であり、殻口下部がまっすぐ下に伸びる。

**備考** 採集時に軟体部はなかったが摩耗は殆どなく、光沢も確認された。また、採集日の8月24日は海水浴シーズンであり、トガイ浜には多くの海水浴客やダイバーがいた。このことから、殻が脆いヒルガオガイが転石海岸であるトガイ浜に漂着してから長期間 (1週間程度) 経過していたとは考えにくい。ヒルガオガイの漂着経緯を推測するためにトガイ浜付近の採集時の1週間前からの天気および風向きを調べた (気象庁HP)。8月17日から24日までは晴れまたは曇り、風向は南および南西の風が風速6~8 m/sで吹いていた。このことから、今回採集した個体は南風の影響を受けて8月17日から24日の期間に漂着したと推測される。また、上記の期間中に南伊豆付近を台風は通過しておらず、採集日から直近の8月10日に高知県に上陸した台風11号も、南伊豆付近を通過していないことから、今回のヒルガオガイの漂着と台風の関連性は低いと考えられる。また、採集時にはギンカクラゲなどの浮遊性刺胞動物類や他のアサガオガイ科貝類は確認されなかった。他のアサガオガイ科の貝類の漂着時には同所的にギンカクラゲが確認されているが (小松 1991; 鈴木・志賀 2008)、ヒルガオガイでは今回と同様に単独で打ち上がることが報告されている (林 2014)。今後、漂着記録を蓄積していくことで、本種の生態や、漂着の要因が明らかにされることが期待される。



図1 採集地である南伊豆町トガイ浜の転石海岸

図2 今回採集されたヒルガオガイ *Reclizia lutea*

## 引用文献

- Abbott, R. T. and Dance, S. P., 1982. *Compendium of Seashells*, 411pp. E. P. Dutton, New York.
- Churchill, C. K. C., Strong, E. E. and ó Foighil, D., 2011. Hitchhiking juveniles in the rare neustonic gastropod *Recluzia* cf. *jehennei* (Janthinidae). *Journal of Molluscan Studies*, 77 (4), 441-444.
- 林 重雄. 2014. 愛知県渥美半島にヒルガオガイの漂着. 漂着物学会誌, 12 : 53-54.
- 気象庁ホームページ. (<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>) (2016年5月2日閲覧).
- 小松茂美. 1991. 茨城県日立市の海岸に漂着したアサガオガイ類. ちりぼたん, 21 (4) : 95.
- 久保弘文・黒住耐二. 1995. 沖縄の海の貝・陸の貝. 263pp. 沖縄出版, 浦添.
- 西村和久. 1999. 伊豆・小笠原諸島海域における貝類分布. 東京都水産試験場調査研究報告, 211 : 1-124.
- 奥谷喬司. 2000. アサガオガイ科. In 奥谷喬司 (編著). 日本近海産貝類図鑑. pp.318-319. 東海大学出版会, 東京.
- 佐々木猛智. 2010. 貝類学. 381pp. 東京大学出版会, 東京.
- 鈴木明彦・志賀賢治. 2008. 2007年秋における北海道石狩浜へのルリガイの漂着. ちりぼたん, 39 : 22-24.
- 渡辺富夫・成毛光之. 1988. 銚子現生貝類目録. 140pp. 銚子・自然を楽しむ会, 銚子.

(Received Aug. 26, 2016; accepted Oct. 15, 2016)

---

<sup>1</sup> 千葉県立中央博物館, 黒住気付 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2

<sup>1</sup> Natural History Museum and Institute, Chiba, 955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-8682, Japan

<sup>2</sup> 東京大学大学院理学系研究科 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

<sup>2</sup> Graduate School of Science, The University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan